

令和3年度 施政方針

「新たな日常」を作り上げ、高石市のさらなる飛躍・発展をめざして

3月に開催された第1回高石市議会定例会において、阪口市長は「第5次高石市総合計画基本構想の策定」を軸に令和3年度施政方針を発表しました。計画の5つの目標である「明日の担い手を育む」、「みんなで支え合い、健やかに過ごせる」、「安全・安心で快適に暮らせる」、「人を惹きつける魅力と活力があふれる」、「持続可能なよりよい未来へつなぐ」に沿って、施政方針の概要をお知らせします。

※施政方針の全文は市ホームページでご覧いただけます。

問合せ 総合政策課

☎(275)6034



施政方針を発表する阪口市長

現在、一日も早いコロナ禍の終息をめざし、地元医師会と連携しながら、庁内プロジェクトを立ち上げるなどワクチン接種の準備体制づくりに全力で取り組んでいます。今後ともワクチン接種とともに新型コロナウイルス感染症拡大の防止策を講じながら、市民の暮らしや経済を回復させ、アフターコロナに向けて新しい社会をめざしてまいります。

また、第5次高石市総合計画においては、第4次までの基本的な方向性を継承し、都市目標を「人間都市・高石」としています。「多様な主体の参画」、「選択と集中」、「デジタル技術の活用」の3つの視点を設定し、「みんなが輝く育みと健幸の住みよいまち」という基本理念の実現に向けて、次の5つの目標を設定いたします。

「明日の担い手を育む」

■未来社会を生き抜くために

学校教育については「21世紀型能力」すなわち基礎力・思考力・実践力を身につけられるよう、「高石市教育振興基本計画」に基づき、ICT環境の充実、英語教育やプログラミング教育等を実施します。特に、ICT環境については、国のGIGAスクール構想に基づいて導入した児童・生徒1人1台のタブレット端末をしっかりと活用します。そのためのICT支援員の配置や教職員研修の充実を図り、A・ドリルを使った個別最適化の学習など、新しいスタイルの授業を構築して、学力向上に取り組んでいきます。



■産前から産後まで支援を

子育て世代包括支援センターにおいて、妊娠から子育てまで切れ目のない支援を行います。市立母子健康センターとも連携し、家庭の状況によって日々変化する子育てに関する悩みや相談に対して、必要な支援を行います。



■民間活力を最大限に活用

高師浜総合運動施設に指定管理者制度を導入し、民間事業者の活力による市民サービスの向上を図ります。また、管理棟、キャンプ場部分がスポーツ活動の拠点、多世代が集える収益施設を兼ねた地域コミュニティの場となるよう実施設計を行います。

「みんなで支え合い、健やかに過ごせる」

■健康のまちづくり

引き続き、ふれあい健康増進センターに指定管理者制度を導入し、民間のノウハウなどを積極的に活用することで、市民が年齢を問わずに楽しめる内容や初心者をサポートにも配慮された運動ができる教室等を実施するなど、温水プールやフィットネスジムの利用を通じて、心身共に健康に暮らすことができる環境を提供します。



■我が事・丸ごとでつながりを

第5次高石市地域福祉計画・

第4次高石市地域福祉活動計画に基づき、地域共生社会の実現に向け、自治会等の地域団体、社会福祉協議会、市内7郵便局などと引き続き連携していきます。支援が必要とされる方への見守り活動、コミュニティカフェなど地域住民の誰もが気軽に集い交流できる居場所づくりや、さらなる相談体制の強化など、我が事・丸ごとの地域づくりを進めていきます。



■多世代が集う場の創出

老人福祉センター瑞松苑を、コミュニティセンター（デージードーム）に移転統合し、令和4年度のリニューアルオープンをめざします。今後は、コミュニティセンターと老人福祉センターを統合することで、機能の拡充を図り、高齢者と多世代の新たな集いの場として、より一層の利用促進を図っていきます。



■“孤立”を防ぐために

これまで行政や介護事業所、グループホームといった地域の社会資源と繋がりがなかった世帯について、直接各世帯を訪問することで、生活課題の有無、支援の要否などを可能な限り把握し、支援が必要な世帯を支援につなげることを目的とする「孤立ゼロプロジェクト事業」を実施します。

事業の総括者として、市内3中学校区に社会福祉協議会の職員を配置し、また、校区福祉委員や民生委員、自治会など地域の人材や、各校区の介護事業所の職員などが訪問サポーターとなり、令和3年度中に対象全世帯を集中的に訪問します。支援が必要な場合は、市の関係部局や社会福祉協議会で構成する「多機関協働地域包括ケア会議」などにおいて、世帯の状況に応じた支援の調整を行います。

「安全・安心で快適に暮らせる」

＝コロナ禍での避難所運営

長期化するコロナ禍により、今後は感染症対策の整った避難所運営が必要となります。本市では、中学校に続き小学校体育館のエアコン整備を進め、これらの公共施設を避難所として最大限活用し、ワンタッチテントや段ボールベッド、非接触型体温計などの感染症対策物資を備蓄していきます。

また、公共施設だけでなく、市民の方が安全に避難できるように、市内の民間企業や団体等と「災害時における避難所としての利用に関する協定」を締結し、現在は市内の民間施設において新たに5カ所の避難所を確保しています。今後も民間企業等の協力を得ながらコロナ禍における避難所施設の確保を進めていきます。

＝高石市国土強靱化計画

近年、全国的に地震や台風、豪雨、洪水等、大規模な災害が頻発しております。あわせて本市では、今後発生が予測される南海トラフ地震津波の影響を大きく受けやすい立地にあること等から、令和2年度に策定しました「高石市国土強靱化地域計画」に基づき、より一層の安全・安心のまちづくりを進めていきます。



＝南海本線・高師浜線の高架化

平成8年の都市計画決定以降、四半世紀にわたり事業進捗に努めてきた南海本線の高架化が、令和3年5月に悲願の完成を迎えます。これを祝して市民の皆様や関係者とともに完成記念式典を行います。本事業のこれまでの経緯とその効果等をテーマに記念シンポジウムや記念行事を開催し、また市民団体等から鉄道沿線の活性化に資する自主的な事業を募集します。なお、高師浜線の高架化についても、バス代行輸送を行いながら、早期の全線完成をめざして取り組んでいきます。



「人を惹きつける魅力と活力があふれる」

＝リノベーションまちづくり

市内に存在する遊休不動産を活用した民間主導によるリノベーションまちづくりを引き続き推進し、地域の活性化を図ります。また、旧保健センターについても、公民連携の手法により、市民や事業者が交流できる施設としての活用を検討していきます。

＝高石シーサイドフェスティバル

本市の一大イベント「高石シーサイドフェスティバル」は、新型コロナウイルス感染症の影響で昨年は中止となりましたが、一昨年は3万9千人を超える方に楽しんでいただきました。実行委員会と連携し、国や大阪府から示されたイベント開催に係る基準などに沿って、実施に向けて検討していきます。

「持続可能なよりよい未来へつなぐ」

■温室効果ガス排出をゼロに

市民の皆様のご理解・ご協力により、リフューズ・リデュース・リユース・リサイクルの4Rの取組が進んでいます。引き続き、一部従量制による可燃ごみの減量・再資源化等、資源循環型社会の構築に向けた施策を推進していきます。また、世界的な気候危機や新たな日常への移行等を踏まえ、環境と経済の好循環を図りながら、脱炭素社会の実現に貢献すべく、本市域内において、2050年までに二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量実質ゼロをめざす「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを表明します。



■森里川海プロジェクト

環境省の「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」に賛同し、引き続き、高師浜の砂浜の保全や稚魚の放流を行うなど、自然環境の保護に取り組んでいきます。



■スマート自治体

行政事務のデジタル化の推進については、国の進めるデジタルトランスフォーメーション(DX)の動向を注視しながら、スマート自治体を実現するため、デジタル社会に対応した効率的な行政運営に向けて取り組んでいきます。

■美しいまちを保つために

望まない受動喫煙による健康被害の防止、喫煙マナー及び環境美化意識の向上を図るため、引き続き、喫煙等対策についての取り組みを進め、市民等の健康増進や安全で快適な生活環境の確保に努めていきます。



市長あいさつ

新型コロナウイルス感染症の脅威に打ち勝つため、「新たな生活様式」を実践し、新型コロナウイルスと共生する「新たな日常」を作り上げていくという、大きな挑戦に本市も果敢に取り組んでまいります。朝の来ない夜はありません。市民の皆様が安心して暮らせる、夢と希望あふれるこの愛すべき郷土(ふるさと)高石市のさらなる飛躍・発展をめざし、今後とも、職員一丸となりベストを尽くしてまいります。引き続き、議員各位と市民の皆さまの温かいご理解とご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

阪口伸六

